

# 知事記者会見の概要

日 時：令和4年2月1日(火) 16:15～16:36

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

## 1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

## 2 質疑応答の項目

### 発表事項

(1) 新型コロナウイルス感染症への対応について

<幹事社：読売・日経・YTS>

## ☆報告事項

### 知事

皆様、お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。本県では、本日過去最多となる284名の新規感染者が確認されました。感染拡大の勢いが止まらない状況であります。また、宿泊療養者や自宅療養者の急増により、保健医療提供体制の崩壊や社会経済活動の停滞が危惧されるところであります。そういう中で、先ほど危機対策本部会議を開催いたしまして、重点措置区域の追加、そして学校・保育所などにおける感染防止対策の強化などについて、協議・決定をしたところでございます。

まず、重点措置区域の追加から申し上げますが、直近一週間の人口10万人あたりの新規陽性者数などが急増して、クラスターも発生している、米沢市と高畠町を2月3日から重点措置区域に追加いたします。米沢市や高畠町を含む重点措置区域では2月20日までの間、不要不急の外出自粛や飲食店の時短、そして会食時の人数制限、学校活動の制限などの重点措置を実施いたしますので、県民の皆様、事業者の皆様には改めてご協力をお願いいたします。

次に、学校・保育所などでの感染防止対策の強化について申し上げます。今回の第6波の特徴と言いますか、それは学校や保育所などで多数のクラスターが発生しているということだと思っています。そういうことで、学校における感染防止対策の強化につきましては、重点措置区域内での部活動の活動停止をお願いいたします。また、校外学習については実施しないよう、お願いいたします。保育所などでは社会機能を維持するため、感染予防に最大限配慮しながら、原則開所するようお願いをいたします。ただし、市町村が臨時休園の判断を行うにあたっては、保育の必要な方に対する保育が継続して実施されるよう、ご配慮をお願いいたします。なお今般の第6波では、とりわけ庄内地域の学校などで急激な感染拡大が見られるところです。県としましては、学校の継続や休業の可否を始め、庄内地域の学校等における感染防止対策全般について支援するため、「学校支援タスクフォース」を設置いたしました。具体的には各保健所長と地区医師会がコアメンバーとなって、医療専門家から専門的な助言をいただきながら、学校関係者からの相談協力依頼に対して、コアメンバーが助言・アドバイスを行うものであります。なお、このタスクフォースを保育所などにも応用することを想定しているところです。

また、自宅療養者、大変増えてまいりました。そして、宿泊施設の療養者も同様でありますけれども、そこで療養される方々に対しての支援、これに対しては引き続き、しっかりと取り組んでまいります。

次に大規模接種事業について申し上げます。これまでに例を見ない急激な感染拡大の中にあって、ワクチン接種は感染防止対策の要となるものです。県としましては、希望される方への3回目接種が円滑に進むよう、実施主体となる市町村や関係機関と連携しながら、速やかな接種に取り組んでおります。その取組みの一貫としまして、市町村の接種事業を県としても後押しするため、昨年夏に引き続き県による大規模接種事業を実施したいと考

えております。現在、最後の検討調整を行っているところですが、基本的な考え方は次の通りであります。まず、接種会場ですが、県内4箇所、村山地域は県庁舎であります。それから最上・置賜・庄内地域は、ホテルなどを予定しております。次に実施時期であります。3月の土日祝日といたします。各会場、2日間または3日間での実施を検討しております。次に接種対象となる方は、3月の接種日までに市町村が発行する接種券をお持ちの県民の方となります。それから使用するワクチンですが、武田・モデルナ製となります。また、全体の接種規模ですが、最大6,500人程度を考えているところです。

以上が基本的な考え方ではありますが、具体的な接種会場や日程、予約開始日、予約方法などにつきましては、関係予算の議会での議決を踏まえた上で、今月中に改めて県民の皆様にお知らせをいたします。この度の第6波を1日も早く抑え込むということが重要であります。県民の皆様には、不織布マスクの着用、こまめな手洗い、消毒。そして、密閉、密集、密接の全てを避けるゼロ密、換気の励行といった基本的な感染防止対策を改めて徹底してくださるよう、お願いいたします。特に、マスクを外した会話・会食というのが最大の感染リスクでありますので、マスク生活の徹底をお願いいたします。本当になんとしてもこの第6波ですね、県民の皆様、事業者の皆様、市町村と一丸となって難局を乗り越えてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。私からは以上です。

☆フリー質問

記者

NHKの金敷です。よろしく申し上げます。改めてですが、先ほど知事の挨拶にありました、今日の感染者が過去最大さらにまた更新いたしました。これについての所感を伺いたいのですね、今日、このタイミングでの対象地域の追加に至った理由ですね、改めて伺わせていただけますでしょうか。

知事

はい、わかりました。本日が284人という本県では過去最多を更新したわけであります。本当に一週間以上3桁が続いておりますけれども、ここまで山が高くなるということはなかなか想定できなかったところでもあります。いかにオミクロン株というのが感染力が強いのか。そしてスピードが速いかということの証左であるとも思っております。本当に驚異的なスピードで感染拡大が県内でも続いておりますので、なんとしてもこれを食い止めなければならないという思いであります。本日この時点で、米沢市そして高島町を追加したということでもありますけれども、感染拡大状況を毎日、打ち合わせをしております。状況見ながら、そしてこの地域でこれだけ増えてきた、そしてクラスターも発生していると、これからはちょっとここは拡大が続くそうだとするところについて、やはりしっかりと措置をしていかなければならないと思ったところでもあります。また、米沢市、高島町両方から要請も来ております。危機感を持って要請というものも行っておられますのでね、そういった

ことにお応えもし、また感染拡大をしっかりと止めるというようなところで、できるだけ早くということによって本日となりました。

記者

ありがとうございます。このほかの周辺の地域、また山形市の周辺、天童、上山も数字だけ見ますと、新規感染者が増えている傾向にあると思います。こちらのほうは検討には入らなかったのでしょうか。

知事

そうですね。もちろん山形市の周辺地域ということで注視しているところではありますが、10万人あたりの感染者数が100人を超えるというようなところはやはり一つの基準となるかと思うんですけども、またそれぞれの自治体でのお考えと言いますか、例えば、まん延防止等重点措置を講じますと、飲食店に対しては協力金が出ますけれども、それとはまた一方、宿泊施設に対する打撃が大きくなるというようなところで、天童市や上山市では大変そのところで悩んで苦慮しておられるとお見受けをしております。それぞれの自治体のトップの方のご意向というようなものも、お聞きをしながら進めているところでもあります。

記者

すみません、最後に一点だけ。天童市からは支援して欲しいという要請が先日あったかと思えます。そのあたり今日の見ると、特にそういう周辺への要請というのは改めてのものはないかなと思うんですが、そのあたりのご検討というのはいかがでしょうか。

知事

はい。先般、天童市長さん、そしてまた商工会議所の会頭さんといった方々から、要望がございましたけれども、確認をいたしましたところ、まん延防止等重点措置の適用といった、そういう要望ではないということでありました。やはり宿泊施設に対する打撃というものもいろいろと考えながら、今検討なさっているのだらうと思っております。それはそれとして、非常に今経済的に、人の流れが止まるようなところもあって、色々な影響、深刻な影響を受けている業界ありますので、財政的支援をということだったと思っております。それに対しましては、まず感染拡大を一日でも早く収束させる。そのことが一番の経済回復に繋がるということだと県は考えているということと、また先ほどの会議で産業労働部から紹介ありましたけれども、県の緊急支援金の活用と、それから中小企業庁の事業復活支援金、非常にこれは地域そして業種も規制がないというところでもありますので、これを本当に大いに活用を皆さんがしていただけるように周知をしていただきたいと思います。申し上げたところでありました。

記者

山形新聞の田中です。2点お聞きしたいと思います。1点目、今回の第6波の特徴と知事も言及がありました、学校であるとか保育所・幼稚園、こういったところの対策を強化していくということですが、ワクチンが打てない年齢ということも多分にあるのかもありますけど、改めてそこをやっぱり対策強化していく、今回打ち出している策の中で、この策によってどういう効果が表れる、抑止効果が見えてくるとお考えになっておられるのかを、まずは教えていただければと思います。

知事

はい。特に庄内でありますけど、先ほどの会議でも私申し上げましたが、家族内感染というのが間違いなくあります。大人から子どもに感染して、子どもから子どもへというのが学校で感染が広がるわけですね。そしてまた、子どもさんからほかの家族に、その子どもさんの家族にと感染拡大していく。学校というところは人数が大変多いので、ハブになっている、そういうような構図になるんだと思っていますので、子どもを守るということ、イコール感染拡大を防ぐということに繋がると考えております。ですから今回の特徴である、クラスターが多く発生している学校や保育所、そういったところへの対策をね、強化して一日も早く感染を封じ込める、ウイルスを封じ込めるということが大事なんだと思います。

それで、従来はそれぞれの学校にお任せしていたようなところもあったんですけども、今回一步踏みこんで、地域の医師会のご協力もいただきながら、県も保健所も一緒になって、医学的見地というものもしっかり取り入れていただきながら、相談にもアドバイスということで対応しながら、学校の校長先生や学校関係者もいろいろな判断の時に参考にさせていただいて、しっかりと対策をしていけるようにということで、早急に設置したところでもあります。それに近いようなことは既にやっていたのですけれども、今回ははっきりと図にして、組織をしたというのが大きいと思っています。

記者

ありがとうございます。そしてそのタスクフォース、今回の庄内の例ということで出ておりますけど、あとはほかの保育園であるとかおそらくほかの地域でも活用できるか、転用できるかというお考えかと思うんですけども、例えば現在の対象区域になっている山形市がありますけれども、山形市でも同様のタスクフォースを作っていくということではないということなんでしょうか。

知事

はい。たしかこういった体制そのものは、準備ということでは第5波の時に県内全域で、これに近い準備はしていたかと思っておりますので、4ブロックでそういったことができると思っています。

記者

これ山形市との協議によって、山形市でも例えばそういったものを作っていくかどうかはこれからになるという。

知事

そうですね、山形市さんはやっぱり山形市の保健所をお持ちでありますので、しっかりと協議をしながらということになるかと思えます。

記者

ありがとうございます。そしてもう1点。大規模接種のことでお聞きしたいと思います。以前、県としては第3回目の接種に関しては、大規模接種は取らないということをたしか、かつては言及があったかと思えます。政府の都道府県への要請というのも先般あったかと思えますけども、山形県として3回目接種、大規模接種を取り入れるということに決断にいたったそのお考え、例えばワクチン接種の加速化であるとか、ファイザーをなかなか打ちたくないなんて昨今、ファイザーが良くてモデルナがどうのこうのとか、いわゆるワクチンに対する選択とか考え方さまざまあるみたいな話も出てますけれども、どういった思いで、考えで今回大規模接種に至ったのか教えていただけると。

知事

まずは、昨年の県が実施した大規模接種と、今回の大規模接種はそもそも条件が異なっています。昨年の場合は、大規模接種を実施すると政府に申請するとその分のワクチンが別枠で来たんです。ところが今回はその別枠で来ません。それで当初は、市町村がきちんと計画をして取り組んでいる中で、やはりそこが順調に進むように支援するのが一番第一義的なところだろうと思って、県が前に出てやるというところまでは行かなかったんですけれども、ただ政府の取り組むようにということもありますけれども、なかなかその3回目が進んでいないのではないかという状況も考えますと、少しでもやはり市町村の支援ということになればと思ひまして、特に冬場ですのでそれぞれ大変な、県内雪国で雪の状況がどうなるかわかりません。大変な状況でもありますので、少しでも県が貢献できればと考え直したところです。市町村との協議をして、そして何名分くらいの、何十名分くらいのワクチンを、県に市町村分をいただいてそしてそれで摂取するということになりますので、本当に綿密な連携をしながらしっかりと取り組んでいかなければいけないと思ひますけれども、本当になかなか進まないところは一緒になって、早め早めに少しでも進むように取り組んでいきたいと思ひたるところです。